

# 新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	プロイメンド点滴静注用 150mg	市販直後調査 平成 23 年 12 月～平成 24 年 6 月
(英名)	PROEMEND	
(規格・含有量)	150mg/瓶 1 バイアル中、ホスアプレピタントメグルミン 245.3mg(ホスアプレピタントとして 150mg)を含有	
(一般名)	注射用ホスアプレピタントメグルミン	
(メーカー名)	小野薬品工業	
【薬価収載日】	2011 年 11 月	
【薬価】	(1 瓶: 14,919.00 円)	
【薬効コード】	872391	
【薬効分類名】	選択的 NK <sub>1</sub> 受容体拮抗型制吐剤	
効能・効果	抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)	
用法・用量	他の制吐剤との併用において、通常、成人にはホスアプレピタントとして 150mg を抗悪性腫瘍剤投与 1 日目に 1 回、点滴静注する。	
禁忌	本剤の成分又はアプレピタントに対し過敏症の既往歴のある患者 ピモジド投与中の患者	
相互作用	<b>本剤作用増強</b> CYP3A4 を阻害する薬剤(イトラコナゾール、エリスロマイシン、クラリスロマイシン、リトナビル等) <b>本剤作用減弱</b> CYP3A4 を誘導する薬剤(リファンピシン、カルバマゼピン、フェニトイン等) <b>他剤作用増強</b> CYP3A4 で代謝される薬剤(デキサメタゾン、メチルプレドニゾン、ミダゾラム等) <b>他剤作用減弱</b> CYP2C9 で代謝される薬剤(ワルファリン、トルブタミド、フェニトイン等) <b>本剤他剤作用増強</b> ジルチアゼム	
副作用	<b>重大な副作用</b> 皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、穿孔性十二指腸潰瘍、アナフィラキシー反応 <b>その他</b> 便秘、しゃっくり、ALT(GPT)の上昇、疼痛など	

## 削除医薬品通知

●3月1日

ケフレックスカプセル 250mg

削除

## 医薬品変更通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
アルブミン5%静注 12.5g/250mL (2月1日以降)	ブミネート5%

## 適応追加通知

<p>サインバルタ Cap 20mg ラステット S カプセル 25mg</p>	<p><b>糖尿病性神経障害に伴う疼痛</b> <b>がん化学療法後に増悪した卵巣癌</b>          エトポシドとして、通常成人 1 日 50mg/m<sup>2</sup> を 21 日間連続経口投与し、1 週間休薬する。これを 1 クールとし、投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。</p>
<p>サワシリン Cap 250mg パセトシン細粒 10%</p>	<p><b>(ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症)</b>          小児:アモキシシリン水和物として、通常 1 日 20~40mg(力価)/kg を 3~4 回に分割経口投与する。          なお、年齢、症状により適宜増減するが、<b>1 日量として最大 90mg(力価)/kg を超えないこと。</b></p>
<p>グリベック錠 100mg</p>	<p><b>FIP1L1-PDGFRα 陽性の下記疾患</b> <b>好酸球増多症候群、慢性好酸球性白血病</b>          FIP1L1-PDGFRα 陽性の好酸球増多症候群又は慢性好酸球性白血病の場合通常、成人にはイマチニブとして 1 日 1 回 100mg を食後に経口投与する。なお、患者の状態により、適宜増減するが、1 日 1 回 400mg まで増量できる。</p>
<p>ジアグノグリーン注射用 25mg</p>	<p><b>脳神経外科手術時における脳血管の造影(赤外線照射時の蛍光測定による)</b>          インドシアニングリーンとして 25mg を 5mL の注射用水で溶解し、通常 0.1~0.3mg/kg を静脈内投与する。</p>
<p>ジブレキサ錠 2.5mg・10mg ジブレキサザイデイス錠 5mg</p>	<p><b>双極性障害における躁症状及びうつ症状の改善</b>          双極性障害におけるうつ症状の改善:通常、成人にはオランザピンとして 5mg を 1 日 1 回経口投与により開始し、その後 1 日 1 回 10mg に増量する。なお、いずれも就寝前に投与することとし、年齢、症状に応じ適宜増減するが、1 日量は 20mg を超えないこと</p>
<p>プラトシン注 10・50</p>	<p><b>胆道癌</b>          胆道癌には、ゲムシタピン塩酸塩との併用療法として、I 法を選択する。          I 法:シスプラチンとして 25mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を 60 分かけて点滴静注し、週 1 回投与を 2 週連続し、3 週目は休薬する。これを 1 クールとして投与を繰り返す。なお、I 法の投与量は患者の状態により適宜減量する。</p>
<p>注射用ペニシリン G カリウム 100 万単位</p>	<p><b>&lt;適応菌種&gt; 梅毒トレポネーマ</b>  <b>&lt;適応症&gt; 梅毒</b>  <b>(用法・用量)</b>  <b>&lt;化膿性髄膜炎&gt;</b>          通常、成人には、ベンジルペニシリンとして 1 回 400 万単位を 1 日 6 回、点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜減量する。  <b>&lt;感染性心内膜炎&gt;</b>          通常、成人には、ベンジルペニシリンとして 1 回 400 万単位を 1 日 6 回、点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 回 500 万単位、1 日 3000 万単位を超えないこと。  <b>&lt;梅毒&gt;</b>          通常、成人には、ベンジルペニシリンとして 1 回 300~400 万単位を 1 日 6 回、点滴静注する。なお、年齢、症状により適宜減量する。</p>